

第145回定例会 報告レポート

■2011年12月16日（金）15:00～17:30

■LIXIL:GINZA（東京都中央区）

（本レポートの著作権は、メンテナンス研究会に帰属します。）

転記・引用等の際には、事務局にご一報下さい／連絡先は巻末に掲載）



■テーマ ①研究報告レポートNO.6「トイレの『ソフトスケール』『尿石』」発刊報告

報告者：内田康治（事務局長）他 編集関係者

②今年を振りかえる ～活動報告～

A:東日本大震災の現地ボランティア参加報告（白倉）

B:横浜国際トイレフォーラム2011の報告（坂本・白倉ほか）

C:千葉県観光物産協会での講演の報告（坂本・山戸）

D:西岡秀雄先生<日本トイレ協会名誉会長>を偲ぶ（山戸・坂本）

◇進行役：坂本菜子（日本トイレ協会メンテナンス研究会代表）ほか

今回の定例会は、今年1年を振り返る話題を取り揃えました。

テーマ①では、11月10日に13年ぶりに発刊した研究報告書のお披露目では、NO.6「トイレの『ソフトスケール』『尿石』」を実際に手にして頂きました。

テーマ②では、4つの活動報告を行いました。終了後は、忘年会を行いました。

■テーマ①：研究報告レポートNO.6「トイレの『ソフトスケール』『尿石』」 発刊報告…報告者／内田康治（事務局長）他 編集関係者

◆自己紹介

研究報告No.6 トイレの「ソフトスケール」「尿石」が11月10日に発行致しました。今回、編集を担当させて頂いた内田<メンテナンス研究会事務局長／(株)アメニティ所属>です。

(株)アメニティは、トイレの総合メンテナンスを行う会社です。最大の特長は、トイレ診断士と予防型メンテナンスです。トイレ診断士とは厚生労働省に認定された社内検定制度で、トイレの状態をチェックできる技能です。

予防型メンテナンスは、お客様のトイレを定期的に訪問し、トイレの状態をチェックし、トイレの状態が酷くなる前にメンテナンスを施し、トイレを良い状態に維持管理していくというものです。そして、横浜を本部にフランチャイズ展開しており、全国でサービスの提供を行っております。



今回の編集を中心的に行った内田康治事務局長。専門的な内容を分かりやすく表現して下さいました。

◆研究報告 No. 6 の発行と経緯

今回の研究報告は、日本トイレ協会メンテナンス研究会として No. 6 になります。No. 1 の「尿石について（1992年）」に始まり、1997年には、No. 5 トイレメンテナンスマニュアルを発売し、今でも販売が続いています。

過去、小便器詰まりの要因と言えば「尿石」でした。しかし、近年、メンテナンスの現場では、小便器の排水不良の対応の際にローポンプ（ラバーカップの強力な物）で異物を引っ張ると、尿石とは違うグニャグニャとした物体が出てくることがあり、これは何だと調べ始めたのがきっかけです。



◆報告書の内容説明

小便器詰まりの要因と言えば「尿石」が代表ですが、「ソフトスケール」と呼ばれる物体による詰まりが確認されるようになってきました。本書はその「ソフトスケール」に焦点をあてた研究報告の第1段です。報告書として完璧なものではありませんが、まずは、その存在をトイレ現場の従事者や管理者の方に知っていただくことを目的としております。

〈主な項目〉

- ・ソフトスケールとは
- ・尿石とソフトスケールの関係
- ・ソフトスケールを促進する設備環境
- ・ソフトスケールの除去
- ・尿石について

※詳細は報告書 No. 6 をご確認ください。



ソフトスケールを取り出した状況

◆編集にあたっての感想

私は過去に、メンテナンスの現場でソフトスケールに遭遇することがありました。それは、小便器の排水不良の対応で、異物を引っ張り出した時でした。そして、グニャグニャとした物体でとても気持ち悪い物でした。

今でこそ、それがソフトスケールだと判断することはできますが、その時はソフトスケールの存在すら知らなかったので、ただ気持ち悪い物体というだけで、施設の管理者にも上手く伝えられなかったことを覚えています。

また、私自身が化学に詳しいわけではないので、研究報告の編集にあたり、少しずつ勉強しながら進めていきました。そして、研究報告書が完成したら、主な読者は、恐らく現場の方が多くなることを想定し、科学の専門知識があまりない方でも読みやすい言葉で表現することを心がけました。

なお、この研究を進めるに当たり、この汚れを最初に科学的に検証した春山智紀氏<個人

会員／無臭元工業(株)所属の研究論文を元に、メンテ研会員企業の中の現場で作業をしている私たち(株)アメニティや、(株)レッツクリエイト、設備メーカーである TOTO(株)および(株)LIXIL 等の皆様にもご意見を伺いながら、多角的な視点を入れて作成しました。表紙のデザインはソフトスケールが小便器の排水管に影響を与えるという思いから、それを木に例えたイラストを用いました(デザイン：芋田浩貴<一間堂建築設計事務所>)このような冊子は世界初だと思います。

ふりかえって、このメンテナンス研究会は、過去にまだ実態の不明瞭だった「尿石」という言葉を作り、世に広め、今ではトイレのメンテナンス現場で知らない人はいない程になりました。この「ソフトスケール」はまだまだこれからですが、同様に世の中に広めていきたいと思います。今後ご協力をよろしくお願いします。ご清聴ありがとうございます。

◆質疑応答

Q1) ソフトスケールの発生は、尿の影響を受けていると思うのだが、口にする食べ物や飲んでいる薬などと、ソフトスケールの形成に関係はあるのではないのでしょうか？

A1) 確かに、病院などのトイレは独特な臭いがします。これも薬などの影響が出ていると考えられるでしょう。ただし未だ、食べ物や薬などとソフトスケールの関係性は明確に分からないので、今後の研究として面白い課題だと思います。

⇒今後、ソフトスケールの採取時にどんな環境で確認されたかを、調べる事にしました。

Q2) 大便器も節水型が増えてきたが、ソフトスケールの問題は出ないのか？

A2) ソフトスケールの発生は、主に尿が影響していると思われます。その為、大便器では排水不良を発生させるほど、ソフトスケールが成長する事は確認した事はありません。今後の様子を見守りたいと思います。

<研究報告書 NO.6 の販売について>

- ・会員には1冊贈呈します(2012年1月中旬に郵送の予定)
- ・購入は、公式HPでお受けしております(2011年1月後半より開始予定)
 - ◆メンテ研HP：<http://toiletmaintenance.org/page055.html> (今後変更の可能性あり)
- ・サイズ：A4／全8P
- ・価格 (送料別)
 - ◆一般価格：1000円／冊
 - ◆会員価格：800円／冊
 - ◆まとめ価格：〈10冊〜〉…700円／冊
 - 〈50冊〜〉…550円／冊 〈ともに会員非会員問わず〉

■テーマ②：今年を振りかえる ～活動報告～

A: 東日本大震災の現地ボランティア参加報告

白倉正子（アントイレプランナー代表）

もう5か月前になりますが、7月30日～31日に宮城県の被災地に行ってまいりました。理由は10年前前に宮城県で勤務していた時の仲間が被災したので、励まされたからです。簡単ですが、その様子を報告させていただきます。

◆岩沼市でのボランティア活動

1日目は仙台市から30分ほど南下した岩沼市でボランティアをしました。岩沼市は海と川に挟まれた寺島地区が大変な状態でした。朝、ボランティアセンターに行き参加登録をしたあと10～20名のチームを作り、被災者の希望する作業を行います。午前中は農家のビニールハウスの解体作業、午後は津波で土砂が運ばれた畑の跡地に埋まっているガラス破片を除去する作業でした。震災当時は私の身長（165cm）を超えるほどの波が押し寄せ、太い鉄骨のビニールハウスはグニャグニャに…。まるで恐竜の骨を発掘しているような気分になりました。作業の道具はセンターが手配してくれましたので、よかったのですが、他の地域は道具すらろくにないそうです。作業中に怪我をする方もおり、事前に登録しておいたボランティア保険で治療する方も…。万全な準備と対策が必要だと思いました。



海水で錆びたビニールハウスを解体する

◆南三陸町の仲間を訪問する

2日目は南三陸町に行きました。私の仲間のJ子さんが無事だったので、励ましに行きたかったからです。J子さんは看護婦で、海沿いにある「町立志津川病院」に勤務中に被災しました。病院は5階建ですが4階まで波が押し寄せ、屋上になんとか逃げ延びたとか。夜は5階に降り、カーテンや介護用おむつを体に当て、仲間と体を寄せ合い寒さを凌いだそうです。病院の近くにはテレビで有名になった赤い鉄骨がむき出しの「防災対策センター」がありました。そしてその横にあったはずの町役場は、単なるコンクリートの基礎だけが残っていました。まるで爆撃シーンを撮影する映画のセットの中に見学に来た気分です。これが実際の生活の場だったと思うと、本当に無念でいたたまれない気分になりました。



病院の玄関に刺さったまま手付かずの車

◆トイレの状況

ちなみに被災地のトイレ（体育館の避難所など、仮設および既設共に）は、とてもきれいに管理されていました。支援物資で届いた除菌剤が山のように置いてあったのが、印象的でした。しかしこれはあくまで5か月後の話。震災直後は、テントにブルーシートを張り、簡易トイレを作り、穴を掘って、そこに溜まった大便を、ペットボトルを斜めに切った手作りスコップで、J子さんらが自ら除去していたそうです。（小便は体育館内のトイレを使用するようにルール化していたそうです）急な集団生活を余儀なく虐げられましたが、たくましく生き抜く姿にただ脱帽でした。これからも、できることを探して、力になりたいと思います。



避難所の手作りトイレ（提供者：菅原文彦／志津川中学校教頭）

B: 横浜国際トイレフォーラム 2011 の開催報告 ～メンテナンスの話題を中心に～

坂本菜子（メンテ研代表）・白倉正子（アントイレプランナー代表）

◆11月12～13日に神奈川県横浜市で開催された「横浜国際トイレフォーラム2011〈第27回全国トイレシンポジウム〉の様子を、振り返りました（プログラムは第144回案内状をご覧ください）。

◆今回のフォーラムは、「国際」「東日本大震災」を柱にし、「市民の命と暮らし／災害とトイレ」をテーマに開催され、300名が集いました。海外からの基調講演者として台湾と韓国から、そして神奈川大学の留学生（6か国）を招いて、各国のトイレ事情や、日本のトイレをどう思うか？を語り合いました。また東日本大震災のトイレについては、帰宅困難者のトイレについて都内で対策をされた工学院大学の村上正浩准教授からの報告や、南三陸町の志津川中学校の菅原文彦教頭や震災ボランティアに行った方や自衛隊の熊谷耕造氏など、大勢からお話を伺いました。それ以外には、会員の発表コーナー（プレゼンテーションセッション）で、メンテ研の仲間が清掃時に役立つ新商品を作ったエピソードが紹介したり、学校トイレの維持管理の在り方を掲載したホームページを開設している話などが発表されました。

◆展示コーナーでは、会員企業の商品やカタログ、自衛隊や横浜市の活動写真展示がありました。またトイレ関連書籍販売コーナーでは、メンテナンス研究会が新しく発行した研究報告書NO.6「トイレの『ソフトスケール』『尿石』がお披露目され、9冊も販売しました。良いトイレ事例を紹介する「グッドトイレ選奨」では、メンテ研の会員企業の応募作品が会場審査でトップの票を獲得しました。

◆2日目は、横浜市内のトイレや観光地を訪問するツアーを開催し、三溪園（中区）内の臨春閣にある非公開トイレ（江戸幕府の徳川吉宗8代将軍が幼少期に使用した可能性の高いトイレ）や、北朝鮮工作船のトイレなどを見学しました。山下公園の公衆トイレではメンテナンス従事者にインタビューをしたのですが、維持管理の大変さを語っておられ、参加者の興味も集中していました。

◆内容が充実していた為に、十分に表現しきれませんが、とても実りの多いフォーラムとなりました。参加者からも非常に好評でした。今後も皆さんで盛り上げたいと思います。



会場は300名が集う盛会になりました



パネルディスカッションのコーディネーターをする坂本代表



紀州徳川家にあったトイレ（三溪園内）

C:千葉県観光物産協会での講演の報告（坂本・山戸）

坂本菜子（メンテ研代表）・山戸里志（メンテ研監事）・森田利香（㈱アメニティ）



千葉県観光物産協会での講演は好評だった

◆11月15日（月）に、千葉県観光物産協会よりお招きを受けて、「トイレ不都合物語」と題した講演をまいりました（千葉県館山市）。参加者は500名程で、とても関心が高いことがわかりました。講演時間は30分で、最初の25分間は坂本代表がトイレのことや維持管理の大切さを、最後の5分は山戸氏が公衆トイレのネーミングライツについて、紹介しました。

◆千葉県は今後トイレの整備に力を入れたいそうですので、これからも何かお役に立てれば…と思います。

<編者より>ここ数年で急に、トイレの維持管理に関する講演の依頼や原稿の依頼が増えています。昨今の経済不況が原因でもありますが、やっと維持管理のノウハウが注目されて始めたのだと実感しました。メンテ研の研究活動をこれからも大切にしていきたいと思えます。

D:西岡秀雄先生<日本トイレ協会名誉会長>を偲ぶ

坂本菜子（メンテ研代表）・山戸里志（メンテ研監事）

日本トイレ協会の会長として、長年トイレ文化の発展に貢献して下さった西岡秀雄先生が8月1日に天上の星となられました。トイレ文化および協会の発展は、西岡会長のお人柄によるもので、メンテ研のことも、とても可愛がって下さりいつも気にかけて下さっておりました。

今回はその西岡先生の雄姿と研究成果をまとめた動画を作成しましたので、拝見しました。作成はメンテ研の個人会員でもあるCSリレーションズ(株)の増田恭章社長です。映像は西岡先生のユニークな話しぶりや、愛嬌たっぷりの表情・元秘書の谷さんと楽しそうにしている姿・お歌の好きだった先生の歌声などが入った素晴らしいもので、最後に関係者からの追悼メッセージも流れ、涙を誘いました。

この場をお借りして、西岡秀雄先生のご冥福をお祈り申し上げます。



ユニークな語り口が愛らし合った西岡秀雄先生（写真：右から三番目のメガネの男性）

■最後に…

- ①会場をお借りした LIXIL:GINZA に展示してあった7万2千個のダイヤモンドを付けた便器（スワロスフキー作）と記念撮影をしました（右写真）。
- ②終了後に有志で忘年会をし、研究報告書 NO.6 の完成をお祝いました。



1000万円相当の便器と一緒に！

■感想

今年は東日本大震災が起こってから、9か月経過した現在まで、すべてが「震災一色」だった気がします。そんな中、震災の研究はもちろんのこと、大型フォーラムにも関わり、外部での講演も行い、しかも13年ぶりに研究報告書を出す…という具合に、メンテ研にとっては大変精力的な1年だったなあと改めて振り返りました。特に今回は、九州から初めてお越しになった方や、非会員の方も多くお越しくださり、広がりを感じました。

来年はいよいよ、メンテ研の創立20周年を迎えます（発足は1992年4月）。また定例会は早いもので、あと5回で節目となる150回目を超える予定です。トイレの維持管理について専門的に研究活動を行っているのは、世界でもこの団体だけでしょう。会員と共に力を合わせて、今後も邁進していきたいと思えます。2012年もよろしく願います。（■レポート作成：白倉正子/アントイレプランナー代表）

日本トイレ協会メンテナンス研究会では常時、会員を募集しております。
 会員になられると、定例会のお知らせや、報告レポートの送付等を受けられます。

□■日本トイレ協会メンテナンス研究会 入会概要■□

会員種別…法人会員〔年間費 30000 円〕
 個人会員〔年間費 10000 円〕

○入会金は無し。

○後期以降（11月1日～3月31日）は半額。

希望者には所定の書類をお送りします。事務局にご一報ください。

◆事務局：〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢 685 (株)アメニティ内 (担当：内田)

TEL 045-372-1156 / FAX 371-7717

Mail：jimu@toiletmaintenance.org (担当：白倉)

ホームページ：<http://www.toiletmaintenance.org>

◆代表：坂本菜子 / 設立…1992年